

授業科目	漢方医療設計学特論 Traditional Chinese Medicine			担当教員	山口 拓、宇都 拓洋、 西奥 剛、太田 智絵		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	1-3 年／前期あ るいは後期	必修・選択	選択
授 業 の ね ら い							
1) 漢方薬・生薬の全体像をつかむ。 2) 漢方薬・生薬（天然薬物）の薬理学的理解を高める。 3) 漢方薬・生薬の生産～調整（修治）～流通の流れを理解する。 4) 漢方薬・生薬の品質評価法の重要性を理解する。 5) 漢方薬・生薬の活性成分を理解する。 6) 漢方薬・生薬の活性成分から創薬の流れを理解する。							
観点	学生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標			評価手段・方法		評価比率	
関心・意欲 ・態度	漢方薬・生薬に関心を持ち、薬剤師業務において実践する意欲を喚起する。			授業態度・授業への取組		20%	
思考・判断	(1)漢方薬・生薬が医療の場で重要な位置を占めつつあることを考察できる。(2)漢方薬・生薬が創薬の資となることを考察できる。			レポートもしくは授業での討論・発表		20%	
技能・表現	漢方薬・生薬について、実際の臨床データや論文等の資料に基づいて、自らの意見を表現できる技能を高める。			レポートもしくは授業での討論・発表		30%	
知識・理解	(1)漢方薬のバックグラウンドが理解できる。(2)漢方薬を薬理的に理解出来る。(3)漢方薬・生薬の活性成分と品質評価が理解できる。(4)天然薬物と創薬の連関を理解できる。			レポートもしくは授業での討論・発表		30%	
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準および評価手段・方法の補足説明							
レポートもしくは授業での討論・発表：30%(思考・判断)、50%（思考・判断）、30%（技能・表現）、30%（知識・理解）および授業態度・授業への取組：20%（関心・意欲・態度）で総合的に評価・判定する。							
授 業 の 概 要							
<p>伝統医学の中には漢方医学、アユルベーダ医学、ユナニー医学等があるが、最も論理的、系統的、体系的に集大成され今なお進化し続けているのが漢方医学である。漢方医学は個々人の「証」に照らして処方が組まれることから、現在進められているテーラーメイド医療の最たるものと言える。また、漢方では「未病を治す」という語句に見られる様に、漢方薬や生薬が免疫を高め、発病の予防効果を実証された例も多く、広く予防医学に貢献可能な事が明らかとなっている。又、現在は「証」を超えて臨床に応用されている処方も少なくなく、「大建中湯」が外科領域において、「半夏瀉心湯」が癌治療領域において広く用いられ、新しい展開が進展している。漢方薬を構成する生薬は天産物であるがために、品質のばらつきが大で、漢方薬の効力の不均一性が危惧されている。このためには生薬の品質評価が必須不可欠であり、高感度・簡便・再現性大な分析法を導入する必要がある。また、何千年と継承され臨床的に安全性が確かめられている漢方薬の活性成分の探索は、新たな医薬品の創製につながるものである。以上の様な状況に鑑み、「漢方医療設計学特論」において概略以下の大学院講義を開講し、現在強く求められている伝統医薬ひいては漢方薬による的確な臨床応用に貢献出来る人材育成に資することを主目的としている。</p>							
教 科 書 ・ 参 考 書							
参考書：必要に応じ資料を配布							
授業外における学修及び学生に期待すること							
当該授業科目に関連する日本語並びに英語の文献を読む習慣をつけること。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	漢方薬と歴史	伝統医学の歴史的背景や現代における貢献等について理解する（宇都）	予習：配付資料調査 復習：当該授業内容の復習
2	「証」と漢方薬	「証」を超えて広く適用できる漢方処方の開発を理解する（宇都）	予習：論文調査 復習：当該授業内容の復習
3	漢方薬の作用メカニズム	漢方薬の作用メカニズムを薬理的に理解する（山口拓）	予習：論文調査 復習：当該授業内容の復習
4	精神神経系と漢方薬 その I	精神疾患に適応がある漢方薬を理解する（山口拓）	予習：論文調査 復習：当該授業内容の復習
5	精神神経系と漢方薬 その II	神経疾患に適応がある漢方薬を理解する（西奥）	予習：論文調査 復習：当該授業内容の復習
6	漢方薬と現代医薬	漢方薬と現代医薬の相加・相乗作用、中西和合の流れ等を理解する（宇都）	予習：論文調査 復習：当該授業内容の復習
7	漢方薬と未病医学	未病医学に寄与する漢方薬・生薬を理解する（宇都）	予習：論文調査 復習：当該授業内容の復習
8	生産の生産・流通	漢方薬配合生薬の生産、調整、流通等を理解する（宇都）	予習：配付プリント 復習：当該授業内容の復習
9	生薬の品質評価	漢方薬配合生薬の品質評価を理解する（宇都）	予習：配付プリント 復習：当該授業内容の復習
10	生薬と創薬	漢方薬・生薬から創薬への流れを理解する（宇都）	予習：配付プリント 復習：当該授業内容の復習
11	天然活性成分の単離同定 その I	漢方薬配合生薬の活性成分の単離、同定を理解する（太田智）	予習：論文調査 復習：当該授業内容の復習
12	天然活性成分の単離同定 その II	漢方薬配合生薬の活性成分の単離、同定を理解する（太田智）	予習：論文調査 復習：当該授業内容の復習
13	生薬の活性成分 その I	漢方薬配合生薬の主活性成分を理解する（太田智）	予習：論文調査 復習：当該授業内容の復習
14	生薬の活性成分 その II	漢方薬配合生薬の主活性成分を理解する（太田智）	予習：論文調査 復習：当該授業内容の復習
15	漢方薬と成分	漢方薬の活性成分を理解する（宇都）	予習：論文調査 復習：当該授業内容の復習